

2020年 英語教育改革

求められる英語力は？

5領域の英語力

「読む」「聞く」「書く」「話す①:やり取り」「話す②:発表」

高校卒業時、

セフアール

* **CEFRのA2～B1レベル以上を目標**

「読む」「聞く」「書く」「話す①:やり取り」「話す②:発表」

*外国語学習者の修得状況を示す国際的な尺度

* A 2レベル:英検準2級程度 B 1レベル:英検2級程度

そのために、何が変わるのか？

- ① 習得すべき**語彙数の大幅増加**
- ② 小学3・4年生で「**外国語活動**」が導入
- ③ 小学5・6年生で「**英語(教科)**」が開始
→**成績(数値による評定)がつくようになる**
- ④ 中学・高校の英語の授業は「**英語で行うことを基本とする**」
- ⑤ 大学入学共通テストで「**4技能評価、資格・検定試験の活用**」

① 習得すべき語彙数の大幅増加

これまで

小中高 3000語

(小:0語 中:1200語 高:1800語)

これから

小中高 4000~5000語

(小:600~700語 中:1600~1800語 高:1800~2500語)

② 小学3・4年生で「外国語活動」が導入

- ・ 年間授業時間：35時間(週1コマ程度)
- ・ 「聞く」「話す①やり取り」「話す②発表」中心
- ・ 英語に慣れ親しむ

③ 小学5・6年生で「英語(教科)」が開始

- 年間授業時間：70時間(週2コマ程度)
- 成績(数値による評定)がつくようになる
- 「聞く」「話す①やり取り」「話す②発表」に、「読む」「書く」が段階的に加わる

④ 中学・高校の英語の授業

- ・ 中学・高校の英語の授業は「英語で行うことを基本とする」
- ・ 高校では、ディベートやディスカッション等を通して発信力を高める科目群の新設
→ 「論理・表現ⅠⅡⅢ」を新設

⑤ 大学入学共通テストにおける「英語」

- ・ 2技能「読む」「聞く」から
4技能「読む」「聞く」「書く」「話す」へ
- ・ 民間の資格・検定試験を活用
- ・ 2024年度以降の英語試験は、
資格・検定試験に一本化の方向性
- ・ 2020～2023年度は、従来のマークシート形式の
共通テストと資格・検定試験が併存

※詳細は「大学入試改革」へ